

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102877		
法人名	第2まこと会		
事業所名	グループホームまほろば		
所在地	岡山県岡山市東区中尾1036		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370102877&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年1月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コミュニケーションをとり寄り添うケアを提供し、笑顔で安心した生活が送れるように努めています。有機農法で作られた旬の野菜を使い、入居者と一緒手作りし、食生活の充実を図っています。ボランティアの受け入れや、外出する機会を多くもつけ、社会との関わりを維持しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山市郊外の丘陵地に位置し、母体法人は長年高齢者福祉に携わり地元住民の信頼も厚い。丘陵と田園に囲まれ「まほろば」の名に相応しい「至上の楽園」を目指している。医療との連携が確立されて安心して生活でき、入居者の表情も明るく落ち着いている。複合施設の利点を活用し、多面的な生活支援が可能である。各種マニュアルを整備してサービス向上を図り、職員は自信を持って介助しており、着実な運営が行われている。全員出席の職員会議、毎月認知症の勉強会を開き職員教育を充実、年2回人事考査を行い、資格取得にも援助している。月1回のバイキング料理は高齢者介護推進に関して特筆すべき在り方と評価出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「至上の楽園を目指す」という母体法人の理念を理解共有し、入居者が安心して暮らせる事を心がけている	開設以来、地域との連携を重視『まほろば』の名にふさわしく、至上の楽園実現を目指し、地域と融合した最高の安らぎを提供する高適な認知症ケアの理念を掲げ、努力して来た自負が感じられる。	自己評価に対して共通認識し、職員全体で検討・確認されていることはきめ細かなサービスに繋がるもので、この方針を継続し自立支援に取り組んで下さい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、年2回「元気の出る会」に参加、月2回食事作りのボランティアの受け入れ等地域との交流を図っている	地域ボランティア主催の「元気の出る会」には毎回参加、法人主催の夏祭り等には地元の皆さんが来訪しており、地域との触れあいを大切にしている。町内会の掃除等にも参加して、地域住民との交流を図っている。	地域との触れあいを大事にするホームの方針にのっとり、理事長所有農園の農作業参加など色々な工夫をさらに進めて下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困難事例等、出席者からの意見をもらいサービス向上に生かしている	2ヶ月毎定期的に開催し、ホームの状況報告や意見交換を行っている。委員の意見や提案を積極的に取り上げ、道路整備等高齢者に優しい安全な町作りにも生かしている。老人クラブにも運営推進委員会参加を求めている。	ホームの運営・活動状況を従来どおり詳細に報告し、行政情報・介護制度等もさらに詳しく情報提供すれば委員のホームに対する関心を深め、より活性化が期待できると思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター職員が運営推進会議に参加した際、現状報告して協力関係を築くように取り組んでいる	法改正・申請事項等、その都度相談し、運営推進会議への参加を希望している。	行政当局を通じて地域関係者との関係強化は新たな地域密着型推進のステップとなって行くことでしょう。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、身体拘束についての内容は認識しており、玄関を開放し、自由な暮らしを支援している	身体拘束委員会を年4回開催、身体拘束禁止解除のフローチャートを設け、拘束実施上の要件を具体的に明示している。単に拘束行為禁止に止まらず、高齢者介護の本質の課題として、関係者の意識改革を目指している。	身体拘束を無くす5つの方針を徹底し、入居者の人権擁護と不安を取り除くさらなる努力を期待します。拘束0の取り組みを全面に押しだし研究され、認知症介護の専門性を極められることを願っています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、あるいは改定時等は説明を十分に行い納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場にて反映している	毎月写真と日頃の様子を郵送し、面会時には状況を報告、家族の意見を引き出す働きかけをし、その意見をホーム運営に生かしている。計画変更時にも家族に相談、又、意見箱も設置している。	家族参加の行事においてお互いの交流を支援し、さらに家族・ホームが協力して課題の原因を検討していく方針を徹底し、これからも綿密にケア実施の打ち合わせを家族と共に進めて下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議での意見交換、又年2回の人事考課で提案等聞き運営に反映させている	毎月定期的に職員会議を開催、理事長・施設長・管理者は必ず出席、全職員に情報を提供し職員からの意見は大事に受け止め、設備やサービス改善に反映している。	全職員参加の職員会議システムが適切な問題解決手法となっており、引いては入居者・家族が運営参加する仕組みの構築は説得力があり、評価すべきものであります。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施、勤務表確認、給与集計等把握、年3回の面談等で意見交換(月1回会議出席)をし、職員処遇への反映、向上心を持って働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内の研修と経験や習熟段階に応じた法人外の研修の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会の実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らして頂く為に、不安や要望等傾聴し職員との信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望等傾聴し家族との信頼づくりの構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極め、徐々に馴染み安心出来る様な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ひとり一人の個性や能力の把握に努め、自分で出来る事や、やりたいと意欲を持つ事を さぐりホームでの役割づくりに生かしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、共に本人を支え、より良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚の面会や、馴染みの理・美容院を利用して、関係が途切れないようにしている	面会には何時でも自由に家族や知り合いが来れる支援をしており、家族が馴染の理美容院に案内し、いつもの移動理美容が月2回来ている。当日も調理ボランティアが来ており、良い匂いが漂っていた。	入居者の思い出の場所に行く、馴染の人にきて貰ったり会いに行くことに関してボランティアの開発等の工夫をすれば、新たな展開が見えて来よう。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士に席を設け、孤立しないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入居者の方に面会し、今までの関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し一人ひとりの思いや、希望等の把握に努めている 困難な場合はサービス担当者会議や月1回の会議で検討している	入居者の状況・環境を詳しく把握し、同じ目線で気持ちを聴き入居者がいかに内容を受け止めているか確認している。介護の記録類も整備され行動パターンが把握しやすい。	入居者の意向を汲み取り個々の持つ力を引き出し、「心の中の思い」に寄り添い心身の快適性を高め、尊厳有るケアに結びつくよう、引き続き精励されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時にコミュニケーションを図り、情報得て、これまでの生活の把握に努めている、又本人の通常の会話からも、情報の引き出しに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、及び連絡ノート・伝言板等の職員間の情報共有にて現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング状況を家族と話し合い、次回へのプランに繋げている サービス担当者会議で意見交換、家族の要望を反映、月一回の会議でモニタリングを行っている	全員参加の職員会議で情報を共有、より具体的なケアプランをチームで考え実践している。毎月新鮮な目でモニタリングし見直ししており、それによりケアプランに沿うサービスの徹底を図り、自立支援に繋げている。	自己評価により自分の職務の意義を知りホームの社会的役割を理解して、家族・本人と共にチームで作るケアの大切さを認識することに繋がる、とする趣旨をこれからも強力に推進して下さい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入、月一回の会議でモニタリングを行い意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域での催し、元気の出る会(年2回)・公民会文化祭等に参加、又お花見・紅葉狩りに家族と共に参加し、出で行く機会を増やし地域との交流に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回の食事作りと、定期的な大正琴や腹話術のボランティア受け入れ、豊かな暮らしが出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望にて、かかりつけ医の往診が月2回ある	精神科の協力病院があり、定期往診もあり相談・対策に応じて貰え、緊急時にも対応提携あり。馴染の主治医がある入居者もあり継続して家族が連れて行き、経過記録を医師に見てもらい相談し、指示を仰いでいる。	日常的に起こってくる入居者の心身の変化に対して、素早く適切な判断で対処することは回復を早めることに繋がり、より安心安定した医療バックアップを進めて下さい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常に気づいた場合は、法人内の看護師やかかりつけ医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談や情報交換し、病院関係者との関係づくりを行いスムーズに退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ていない	現在ホームとしては看取りはしていないことを契約時に説明、了解を取っている。重度化した場合は医師や特養の看護師に報告・相談している。又、管理者・職員は終末期ケアについて研修中であり、法人全体で看取りに付いて先日も勉強している。	避けられない重度化の緊急時に備えて、相互の意思が確認出来る体制を整備しておくことが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の緊急時のマニュアルは提示し、職員は常に念頭に置いているが、緊急時等の訓練は定期的に行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署の協力を得て、法人全体の避難訓練を実施し、協力体制を築いている 事務所に避難袋を備え、警察・消防署への緊急連絡網を整備している	消防署と連携し年2回避難訓練を行い、事務所に防災マニュアルを掲示している。非常袋に飲料水・救急箱等を用意、乾パン・オムツ・タオル等も備蓄している。防災会議と防災訓練を月毎に交互に開催している。	可能な限りの状況・環境を想定した、避難訓練を実施されることが望ましいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートな場所での礼儀をわきまえ、居室はノックをして許可を得て入っている 自尊心を傷つけないような言葉かけや対応をしている	職員は入居者の人格を尊重し、穏やかで丁寧な物腰で接しており人生の先輩として高齢者への敬意が感じられる。入室にはノックして許可を得ており、個人記録は鍵をかけ保管し、不要の書類はシュレッダーで処分している。	本人の世界を受け止め自尊心を傷つけない寄り添ったケア及び自己決定の支援をこれからも続けてください。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや衣服、外食日には、メニューから好みの料理を選んでもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴、外出、昼寝に至るまで一人ひとりのペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問美容院の日に散髪する方が多い 馴染みの理・美容院に行く方もいる 季節や本人の好みに合わせた服装で、おしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立で、皮むき等の下準備を一緒に行っている バイキングや選択食を楽しんでいる 湯のみ・箸は自分の物を使っている	月1回バイキング食。自分の湯飲み・箸を使い食べやすい工夫がある。旬の食材で季節感を出し、嗜好を調査し献立に生かしている。食事のペースや気が合う人と組み合わせ、画一的にならないように配慮し、職員も同じテーブルで食べている。	本人の嗜好を調査し、落ち着いて食べれる個々に合った豊かな食事生活を整える配慮及び、バイキング食は新しいケアの在り方として注目したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況により水分補給等に配慮している 咀嚼機能低下の方には、小さめに刻み食べ易くしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きうがいは、本人の力に応じた支援をしている 週2回義歯は洗浄剤使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をした後は、排泄チェックシートに記入している	排泄パターンを排泄チェック表で把握、適時誘導で快適な排泄を目指している。失禁や場所間違いには穏やかに声掛けし、さり気ないケアで本人のプライドに配慮している。	着実な排泄支援が行われています。今後とも排泄自立に向かって、本人の尊厳に配慮しながら快適生活実現に進んでください。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や、一人ひとりの状態に応じて散歩を行っている ヨーグルトやヤクルトを献立の中に取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をしたがらない入居者の場合は、時間をずらして別な職員が再度声かけをして、入浴を勧めている	「入浴状況表」により原則三日毎に入浴、希望により毎日入浴も可。バイタルチェックに触れば清拭。入浴剤を使い色が変わると綺麗ね、と喜んで入る人もあり、季節の柚湯を楽しむこともある。	諸事情が有ると思いますが、一人ひとりの意向や状態に合った時間帯・回数を検討されれば、さらに入浴を楽しむ支援に繋がると思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活の中で、リハビリ活動により身体を動かし、安眠への誘導を支援している 眠れない場合は、飲み物を勧め、お話し等して落ち着いてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報を記入している 薬は職員が管理し、毎食後の薬を容器に分類し食事後に一人ひとりに名前を読み上げながら手渡し服薬確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の水やり・塗り絵・貼り絵・雑巾縫い・配膳等役割を果たしていただけるように配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食日を設けて出かけたり、お花見・紅葉狩りを企画し外出を支援している	池のある広い庭に入居者は毎日のように散歩に出ており、農園にお弁当を持って出て自然に触れ合うこともある。地元ボランティア主催の『元気の出る会』に参加。花見等の行事の外出はもちろん買い物外出や月1回の外食日も楽しみにしている。	外出ボランティアは日常的に入居者と関わって親密な信頼関係を創ることが肝要で、行事ボランティアとは異質な課題を乗り越えて、現在計画されている内容を進められるのを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金から、一緒に買い物に出かけ日用品等購入出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等いつでも電話で話しが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には入居者の貼り絵や写真を貼り、窓際には季節の花を飾り、温かい雰囲気作りを工夫している	廊下は写真や入居者が作った貼り絵のお便り等の作品が張っており、お花も飾られ季節感を出しており、暖かく居心地の良い共有空間となっている。	心地よく入居者の五感を刺激する光・音・香り・手さわりの等、かつての思い出に繋がる工夫で、より居心地の良い共有空間創設が期待できると思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナー・玄関口のベンチ・テーブル等の中での居心地良い場所で、一人又は気の合う同士で過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や家族の写真、使い慣れたタンスや鏡台を持ち込み、安心して過ごせるよう配慮している	全室畳敷きで洗面台が設置されベッド持参もあり、筆筒・鏡台・テレビや家族の写真を飾ったり、仏壇を持ち込む人もある。必要な人にはナースコール代わりに鈴を置き安全と利便性に配慮し安心して心地よく過ごせる個室となっている。	これからも入居者個人の環境・希望は変化してゆきますが本人家族とより詳しく相談し、本人の個性に合った部屋作りとなるような、より細かな工夫が期待されます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の目印として表札やマスコットを掲げ、間違いを防ぐようにしている 入居者の行動には常に注意をして、間違った方には他の入居者に気付かれないよう、さりげなく対応している		